様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 １４ 日現在

機関番号：１２６０３
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2018～2020
課題番号：１８Ｈ００６１９

研究課題名（和文）世界システムとオイコノミア：大戦間期の貨幣論の生態的・人類学的考察

研究課題名（英文）The World System and Oikonomia: Investigation of thoughts on money in the interwar period in the ecological and anthropological perspectives

研究代表者
中山　智香子（Nakayama, Chikako）

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：１０２７４６８０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　7,000,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は20世紀の二つの世界戦争のあいだの大戦間期にあらわれた貨幣に関する考え方が、その後生態学や人類学において検討され、21世紀の現代世界にまで通じるとする立場に立ち、この問題を多角的、学際的に分析した。
　前者については、ネイチャーズエコノミー、エコロジカルエコノミーにおける社会と価値の関係、また地域通貨、仮想通貨の位置を考察し、国家や主権を相対化してとらえることの重要性を明らかにした。
　後者に関しては、貨幣概念を包摂するとされるポランニーやグレーバーの支払手段や債務概念の人類学的展開を踏まえ、これを新自由主義的思想の金融化の側面とも重ね合わせながら、その理論的、歴史的な位置づけを行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
通常、貨幣や金融は純粋に経済的で、場合によっては暮らしをおびやかすような存在ととらえられているが、本研究は生態学（エコロジー）、人類学との関わりにおいてとらえ直すことで、これらが実は社会、つまり人間同士の関係やそこで共有される価値なしには原理的に成立しえないと明らかにした。
研究代表者、研究分担者が論考や一般書、学会や社会に向けたセミナーやシンポジウム、対談や講演を積極的に行った。地域通貨の国際学会には海外の研究者を招聘し、セッションを組んで参加し、学会誌に成果を掲載した。これを起点とした事後のラウンドテーブルにも参加した。コロナ禍においても地道に研究会を重ねて、出来得る限りの展開を試みた。

研究成果の概要（英文）：This joint research has been made on the assumption that the thoughts on money in the interwar period have then been considered in ecology and anthropology and have given considerable impact on our present world. Hence we have taken pluralistic and interdisciplinary approach to this theme. As to the relation to ecology, we have examined the idea of regional and virtual currencies in nature's economy to clarify the connection between human society and its ecological, natural value. Then it has turned out important to relativize the state and sovereignty.
　As to the relation to anthropology, we have examined the concepts of debt and measure of payments by Polanyi, Graeber, etc. which include that of money. Then it has turned out that these concepts give much theoretical and historical implication, also for the understanding of the aspect of financialization in the neoliberal thoughts until recently.

研究分野：社会思想

キーワード：ネイチャーズエコノミー　暮らしのアナキズム　食と経済　貨幣主権　複数貨幣

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

(1)　2008 年に短いペーパーに構想として示された仮想通貨ビットコインは、10 年間のあいだに実現され、飛躍的な展開を見せた。その扱いや規制、法定通貨との関係などをめぐって実務的、理論的な検討が国際的になされ、やがて暗号資産と位置づけられるようになった。その間に、これを支えたブロックチェーン技術はさまざまに応用され、また夥しい数の類似した暗号資産の発展、また決済手段、金融資産としての位置づけが定められるに至った。各国政府は法制度の整備を迫られる一方、これをデジタル化の流れの中で経済成長に活かすあり方を模索しつつあった。経済学や経済思想の中でも貨幣論は必ずしも十分に体系的に整理されておらず、現実の急速な変化も視野に入れた考察が急務と考えられた。

(2)　世界システムとしてのグローバル経済として当時の状況をとらえた場合、ヘゲモニー的「中心」としてアメリカから中国へのシフトが持続的に見られ、両者の摩擦的状況が持続的に存在した。翳り行くヘゲモニーとしてのアメリカの動向が世界に影響をおよぼし、人びとの暮らしにおける先行きの不透明さが増大する中で、人種主義、ポピュリズム、右傾化などと名指される傾向が強まりつつあった。こうした現象に対し、政治学、政治思想的に検討する研究はさまざまに存在したが、経済、とりわけ貨幣や金融との関わりからとらえる考察が、(1)も踏まえて必要であると考えられた。

２．研究の目的

(1)　上記の１の背景を踏まえ、思想史分野の共同研究としては、現状分析というよりは歴史的な目配りのある諸思想の検討を通じて、これに資する成果を挙げることをおもな目的とした。特に着目したのがおよそ 100 年前の 20 世紀大戦間期である。不況と好況の激しい経済変動や戦争をめぐる混乱の中で貨幣の価値が大幅に変動したこの時期には、金融資本主義論、帝国主義論などがあらわれ、人間の生存の持続的な再生産を支える広義の経済（オイコノミア）の思想が模索された。本研究はここに世界システム的統治の分析視角を加え、土地や環境、社会に根ざした価値に基づいて生産や分配を行う生態系に埋め込まれた経済システム、特に非市場的な自然経済における貨幣論、信用、信託、贈与の経済社会システムと、地政学的視点や世界統治、国家制度との関連が重要であるととらえて、これらを明らかにすることを目的とした。

(2)　以上のことがらは、純粋に学問的な成果として発信されるだけでなく、より広い社会に向けても発信され、人びとの暮らしのあり方に一石を投じることが重要であると考えた。このため、専門的論文や専門書として成果を発信するだけでなく、一般向けのセミナーや一般書、あるいは映像など多様なメディアを通じた発信を試みて、社会的貢献を果たすことも目的とした。

３．研究の方法

(1) 本研究は、人類・生態学的な観点から、戦間期にあらわれた貨幣思想の系譜を世界システムとの関連で学際的・複合的に再検討した。特に 19 世紀後半以降の市場と資本のグローバルな展開を構造的に分析したドイツ語圏とイギリスの思想的系譜に焦点をあて、学際的なアプローチによってこれを歴史的、思想的、理論的に解明することを試みた。

(2)共同研究として研究代表者、分担者の間で議論を行うだけでなく、同様、類似、あるいは関連した研究的関心を持つ諸分野、国内外の研究者と学会や研究会を通じて交流することにより、より実りゆたかな成果を得られるよう目指した。

４．研究成果

(1)　2018 年度の学会で「ネイチャーズエコノミー」のセッションを組織した際のゲストを 2019 年度より研究分担者に加え、世界システムとオイコノミアというテーマにとって、「食と経済」とりわけそこにおける「生存（サブシステンス）」が決定的な重要な意味をもつことを抽出することができた。2019 年度以降は、これに即した研究を各自がより深めることとなった。この点に関してはとりわけ、「食と経済」に関わる生存（サブシステンス）のあり方を把握する人類学的視点が、歴史学的視点と並んで重要であることが明らかになった。この論点は、従来の世界システム分析やこれに関する研究では、十分に強調されてこなかったものである。

(2)また（1）で述べた「生存（サブシステンス）」という論点は貨幣にとっても重要であることが、共同研究のなかで明らかになった。このことはとりわけ、金融市場が生存から乖離して自己目的的なバブル膨張へと向かう際に、反作用のようにして複数貨幣的なものが現れてくることからも明らかである。2019 年 9 月に飛騨高山で開催された国際地域通貨・補助通貨学会でのセッション報告とこれに関わる議論、そしてこれらを踏まえた論文作成のプロセス、さらには刊行された論文に関するラウドテーブルでの報告、議論も含めて、この点を示すことができた。その成果は Nakayama & Kuwata 2020, Hayashi 2021 が示すとおりである。

　さらにいえば、共同研究の当初は想定外であった Covid-19 のパンデミックにより、人間の社会的行為が空間的、実質的に大幅に制限され、経済の落ち込みがひどくなる中で、バブル崩壊時とも通底するように、地域通貨、補助通貨や従来とは異なる支払手段がさかんに開発、活用されるようになり、貨幣の社会性、共同性をあらわにしたことも注目すべきことがらであった。

(3)共同研究の成果については、一冊の論考集などにまとめるという形ではなく、各自がおもに単著の論文や書籍を執筆することによって示した（成果一覧に示したとおり）が、内容的に相互に呼応し合っている。食や暮らしなど、いくつかの通底するテーマや見方を示しているものも、いくつか示すことができた。

（４）共同研究を進める中で、専門書や専門論文の分析だけでなく、映像の形をとった先行研究が大いに役割を果たすことが明らかになった。このため、以下の映像作品に字幕を入れて理解を深め、検討に付すという作業を行った。

―Intersecting Optics: A Dialogue on “Race, Nation, Class” 30 Years on
（2018 年度の社会思想史学会大会セッションで上映）

― Das Experimente des Michael Unterguggenberger （44:01）
(Die Geldmacher/Silvio Gesell & das „Wunder von Woergl“/ Regionalgeld/ORF)
（科研研究会で上映、メンバー内で共有）

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計10件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　2件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 Chikako Nakayama, Manabu Kuwata	４．巻 24
２．論文標題 An Investigation of the social and credit theory of money focusing on the contemporary situation of monetary sovereignty	５．発行年 2020年
３．雑誌名 International Journal of Community Currency Research	６．最初と最後の頁 89, 100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15133/j.ijccr.2020.014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

１．著者名 Kiminoti Hayashi	４．巻 25
２．論文標題 Rethinking the significance of regional currencies: The case of the Chiemgauer	５．発行年 2021年
３．雑誌名 International Journal of Community Currency Research	６．最初と最後の頁 98,106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15133/j.ijccr.2021.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

１．著者名 中山智香子	４．巻 48(7)
２．論文標題 グローバリゼーションと「危機」の経済的位相；コロナショック2020の示すもの	５．発行年 2020年
３．雑誌名 現代思想	６．最初と最後の頁 219,223
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 藤原辰史	４．巻 89(3)
２．論文標題 さつまいもと帝国日本	５．発行年 2020年
３．雑誌名 史学	６．最初と最後の頁 67,81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松村圭一郎	4．巻 145
2．論文標題 「宛先」のある経済を再想像する	5．発行年 2020年
3．雑誌名 調査月報	6．最初と最後の頁 2,3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松村圭一郎	4．巻 75（8）
2．論文標題 論点　国家とアナキズム	5．発行年 2020年
3．雑誌名 群像	6．最初と最後の頁 306，311
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松村圭一郎	4．巻 16
2．論文標題 国家なき社会のリーダー考～はじめてのアナキズム２	5．発行年 2020年
3．雑誌名 ちゃぶ台	6．最初と最後の頁 175,186
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松村圭一郎	4．巻 1134号
2．論文標題 分配とヒエラルキー ： 平等/不平等をつくりだすもの	5．発行年 2018年
3．雑誌名 思想	6．最初と最後の頁 5，22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松村圭一郎	4．巻 4
2．論文標題 人間の経済　商業の経済	5．発行年 2018年
3．雑誌名 ちゃぶ台	6．最初と最後の頁 162，167
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中山智香子	4．巻 968
2．論文標題 パックス・アメリカーナを問い直す：「科学的平和」の意味と限界	5．発行年 2018年
3．雑誌名 前衛	6．最初と最後の頁 116，127
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　1件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 中山智香子
2．発表標題 「胃袋の平等」と産業革命以降のネイチャーズ・エコノミー（セッション報告）
3．学会等名 社会思想史学会
4．発表年 2018年

1．発表者名 桑田学
2．発表標題 エコノミーと生物学の交差：パトリック・ゲデスの経済学原理の分析（セッション報告）
3．学会等名 社会思想史学会
4．発表年 2018年

１．発表者名 林公則
２．発表標題 市民関与の新たな可能性　－軍事と金融の関係性を踏まえて－
３．学会等名 環境社会学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 松村圭一郎
２．発表標題 Women Crossing Borders: A Case Study of Ethiopian Female Migrant Workers.
３．学会等名 Fifth International Symposium on Transnational Migration and Qiaoxiang Studies（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計10件

１．著者名 Chikako Nakayama	４．発行年 2020年
２．出版社 Manchester University Press	５．総ページ数 310
３．書名 Karl Polanyi as a precursor of world-systems theorists: an investigation of the theoretical lineage to Giovanni Arrighi	

１．著者名 中山 智香子	４．発行年 2020年
２．出版社 講談社	５．総ページ数 288
３．書名 経済学の堕落を撃つ　「自由」vs「正義」の経済思想史	

1．著者名 斎藤修、古川純子　（第2章、「貨幣」　中山智香子）	4．発行年 2020年
2．出版社 文眞堂	5．総ページ数 254（35-60）
3．書名 分水嶺にたつ市場と社会	

1．著者名 藤原 辰史	4．発行年 2021年
2．出版社 創元社	5．総ページ数 360
3．書名 農の原理の史的研究	

1．著者名 藤原辰史	4．発行年 2020年
2．出版社 ミシマ社	5．総ページ数 192
3．書名 縁食論	

1．著者名 服部 伸　（藤原辰史）	4．発行年 2021年
2．出版社 人文書院	5．総ページ数 420　（28-47）
3．書名 身体と環境をめぐる世界史（「食権力論の射程」）	

１．著者名 藤垣　裕子、小林　傳司、塚原　修一、平田　光司、中島　秀人　（桑田学）	４．発行年 2020年
２．出版社 東京大学出版会	５．総ページ数 264　(169-189)
３．書名 科学技術社会論の挑戦２　科学技術と社会	

１．著者名 Egashira, S. (Manabu Kuwata)	４．発行年 2020年
２．出版社 Springer	５．総ページ数 322 (147-166)
３．書名 A Genealogy of Self-Interest in Economics (Otto Neurath's Theory of Felicitology and the Will to Socialization)	

１．著者名 Godart-van-der-Kroon,A., Vonlanthen, P., Chikako Nakayama, et al.	４．発行年 2018年
２．出版社 Springer International Publishing	５．総ページ数 280
３．書名 Banking and Monetary Policy from the Perspective of Austrian Economics	

１．著者名 Michael Brie, Claus Thomasberger, Chikako Nakayama, et al.	４．発行年 2018年
２．出版社 Black Rose Books	５．総ページ数 324
３．書名 Karl Polanyi's Vision of a Socialist Transformation	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Karl Polanyi in Japan (by C. Nakayama)
http://www.karlpolanyisociety.com/2020/09/06/polanyi-in-japan/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	藤原　辰史 (FUJIHARA Tatsushi) (00362400)	京都大学・人文科学研究所・准教授 (14301)	
研究分担者	林　公則 (HAYASHI Kiminori) (10649312)	明治学院大学・国際学部・准教授 (32683)	
研究分担者	桑田　学 (KUWATA Manabu) (20745707)	福山市立大学・都市経営学部・准教授 (25407)	
研究分担者	松村　圭一郎 (MATSUMURA Keiichiro) (40402747)	岡山大学・社会文化科学研究科・准教授 (15301)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関